

司式 熊田雄二牧師

奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 4:1 あめつちにまさる神の御名を  
あめつちにまさる神の御名を  
ほむるに足るべき心もがな アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 罪 の 告 白 ①

かみ 神よ、わたしを<sup>あわ</sup>憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい  
去ってください。わたしの<sup>とが</sup>咎をことごとく<sup>あら</sup>洗い、<sup>つみ</sup>罪から<sup>きよ</sup>清めてください。わたしは<sup>とが</sup>咎のうちに<sup>う</sup>産み<sup>お</sup>落と  
され、<sup>はは</sup>母がわたしを<sup>み</sup>身ごもったときも、わたしは<sup>つみ</sup>罪のうちにあったのです。わたしを<sup>あら</sup>洗ってください。  
ゆき よりも<sup>しろ</sup>白くなるように。かみ 神よ、わたしの<sup>うち</sup>内に<sup>きよ</sup>清い心を<sup>こころ</sup>創造し、<sup>あた</sup>新しく<sup>たし</sup>確かな<sup>れい</sup>霊をさずけてくださ  
い。すく よろこ 喜びを<sup>ふた</sup>再びわたしに<sup>あじ</sup>味わわせ、<sup>じゆう</sup>自由の<sup>れい</sup>霊によって<sup>ささ</sup>支えてください。しゅ 主よ、わたしの<sup>くち</sup>唇を開い  
てください。この<sup>くち</sup>口は、あなたの<sup>さんび</sup>賛美を<sup>うた</sup>歌います。

しゅ 主イエス・キリストの<sup>みな</sup>御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、<sup>なにもの</sup>何者をも<sup>かみ</sup>神としてはならない。
2. あなたは<sup>じぶん</sup>自分のために<sup>きざ</sup>刻んだ<sup>ぞう</sup>像を<sup>つく</sup>造ってはならない。それに<sup>ふ</sup>ひれ伏してはならな  
い。それに<sup>つか</sup>仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの<sup>かみ</sup>神、<sup>しゅ</sup>主の名を、<sup>な</sup>みだりに<sup>とな</sup>唱えてはならない。主は、  
<sup>な</sup>み名を<sup>とな</sup>みだりに<sup>もの</sup>唱える者を、<sup>ばつ</sup>罰しないではおかない。
4. <sup>あんそくにち</sup>安息日をおぼえて、これを<sup>せい</sup>聖とせよ。
5. あなたの<sup>ちち</sup>父と<sup>はは</sup>母を<sup>うやま</sup>敬え。
6. あなたは<sup>ころ</sup>殺してはならない。
7. あなたは<sup>かんいん</sup>姦淫してはならない。
8. あなたは<sup>ぬす</sup>盗んではならない。
9. あなたは<sup>りんじん</sup>隣人について<sup>ぎしょう</sup>偽証してはならない。
10. あなたは<sup>りんじん</sup>隣人の<sup>いえ</sup>家を<sup>むさぼ</sup>むさぼってはならない。<sup>りんじん</sup>隣人の<sup>つま</sup>妻、また<sup>りんじん</sup>すべて隣人  
のものを<sup>むさぼ</sup>むさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 4:2 生くるも死ぬるもただ主を思う  
生くるも死ぬるもただ主を思う

ゆるがぬ心を与えたまえ アーメン

共同の祈禱 祈禱書33 役員のための祈り

いつくしみ深い父なる神さま、あなたの御子イエスは仕える者の姿をとり、最後の晩餐の席で弟子たちの足を洗い、人間の誇りを拭い去ってくださいました。わたしたちも誇りを捨て、互いに仕え合うことができますように。特にキリストがお立てになった教会役員が、キリストの模範に倣い、愛をもってあなたの民を導くことができますように。信徒一人一人も、役員のご指導に従い、教会の一致と平和に努めることができますように。

(ヨハネ13、1ペトロ5、「誓約」六)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 四国中会を覚えて 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書12章54～59節 (新約聖書134頁)

説教・祈禱 「判断停止人間になるな」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 46:1 主は命を与えませり

主は命を与えませり 主は血潮を流しませり

その死によりてぞ我は生きぬ 我何をなして主にむくいし アーメン

\* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあげさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪をおかす者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる父・御子・御霊の一人の御神に御栄え尽きざれ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週: 門脇陽子長老)

本日 受付 1階: 古澤迪子・藤原宏章執事 2階: 佐藤紀子執事 / 動画: 録音:  
次週 受付 1階: 星野房子・長尾牧執事 2階: 那珂信之執事 / 動画: 録音:

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

## I 天からのしるし

54節に「イエスはまた群衆にも言われた」とあるので、それまでは、おもに弟子たちに言われたことでした。しかし、56節で「偽善者よ」と言っておられるので、おもにファリサイ派・律法学者たちに再び向かって言われたのです。並行記事のマタイ福音書ではファリサイ派とサドカイ派が「エルサレムから」来たと言っています。

律法主義のファリサイ派と儀式主義のサドカイ派は、ふだん仲が悪いのにイエス暗殺計画では合意しました。しかし、群衆はイエス様を少なくとも預言者だと思っているので、簡単には殺せません。何か言葉尻を捕らえて、律法違反を証明しないとイケないのです。それはマタイ福音書の方に、はっきり書いてあります。ファリサイ派とサドカイ派がイエスを試そうとして「天からのしるし」を求めました。預言者にせよメシアにせよ、天の神から遣わされるからです。

しかし、あなたがたは天気予報には敏感だが、時代のしるしには鈍感だと、イエス様は警告なさいました。時代のしるしとは、終りの時代のメシア到来のしるしです。旧約聖書の預言が、「主の日」「その日」「その時」、神の裁きと救いがなされると言っていたしるしです。イエス様は、メシアの登場に伴うしるしを、もうたくさんしておられました。荒野に水が湧き出で、野原一面に命の花が咲くしるしが、病人や盲人たちになされました。イスラエル人にも異邦人にも、大勢の人に癒しの奇跡がなされました。大勢の人に命のパンを与える奇跡もなさいました。

## II 判断停止人間

次の、早く仲直りをしなさいという教えはマタイ福音書の山上の説教にもあります。ルカ福音書では、57節が付いているのが特徴的です。「あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか。」ユダヤ教が『タルムード』という聖書の10倍くらいはある、細かいことまで律法の付け足しや解説や解釈書を作っていたので、ユダヤ教徒はトラブルがあると、すぐ、律法の専門家に判断を求めるのが習慣になっていたようです。

安息日問題がよく出てきますが、この12章の始めの方で、群衆の一人が「先生、私にも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください」というのがありました。「誰が私をあなたがたの裁判官や調停人に任命したのか」とイエス様が言われたように、明らかに変なお願ひですが、当時はそれが当たり前だったようです。ラビと言われる先生が、『六法全書』のようなタルムードを使って、裁判官や調停人の役割をしていたのでしょう。

イエス様が山上の説教で教えられた時、群衆は非常に驚いたとあります。理由は、律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからです。律法学者は丹念にタルムードを調べて引用しながら教えていたのでしょう。イエス様は、そんな分厚いものは

見ないで、まっすぐ群衆に向かって、御自分の言葉＝ロゴスでお語りになりました。

さて、「先生、私にも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください」というお願いには、兄弟に「腹を立てている」ことが含まれています。そこには憎しみに満ちた心があります。憎んで腹を立てる場合、「あんな奴いなければ」「あの人さえいなければ」と心の中でその人の存在がなくなることを願っています。つまり、心の中では殺しているのです。

殺意は、ほんのちょっと腹を立てたことから始まることもあって、仕返しの最終段階が殺人です。それがエスカレートする前に「仲直りせよ。」律法の要求であり精神である愛は、律法学者からはどんどん離れて、イエス様によって回復されました。しかもイエス様は、十字架の出来事を見通して教えておられます。赦された者は赦す者になれ。

教会形成において大切なことの一つは、赦しあいと仲直りです。教会は、キリストを信じることで一致する集まりです。気の合う仲間の集まりではありません。お茶のみ仲間、趣味・娯楽仲間ではありません。人間の好き嫌いで一緒になっているのではないのです。むしろ、自分に合わない人を理解し、受け入れ、赦しあっていくことに意義がある集まりです。それが、罪を赦してくださったキリストのなさる弟子訓練なのです。

十二弟子は、誰がいちばん偉いかと高ぶってケンカしていたことを福音書は隠しません。そこにキリストの言葉の支配と訓練が必要であることを知ったからです。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、身を低くして仕える者になれ。私も天から低く下って仕える者の姿をとった」とキリストは言われます。今年新しい出発に向かう時ですが、キリストの弟子訓練は続きます。